

練馬区子ども読書活動推進会議(第11期第二回)要録

日時：令和4年2月22日（火） 午後1時30分から午後3時10分まで

場所：光が丘図書館視聴覚室・オンライン会議（ZOOM）

●参加者

○委員（敬称略）

林、木村、工藤、埴、境野、慶野、乾、内田、河合、中村

○事務局

清水光が丘図書館長、松田子供事業統括係長、同係 渡邊、富田、吉住、
教育指導課 佐々木

●議事等

(1) 子ども読書活動推進計画の取組の体系と具体例について

(2) コロナ禍における近隣区の状況について

●配付資料

資料1 子ども読書活動推進計画の取組の体系

資料2 コロナ禍における近隣区の状況

●会議要録

○事務局

ただいまより、第11期第二回練馬区子ども読書活動推進会議を開催させていただきます。それでは、座長、会議の進行をお願いいたします。

○座長

本日は、ご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。

それでは、次第に沿って議事を進めたいと思います。

まず、事務局より議題についてご説明をお願いします。

（事務局説明）

○座長

事務局から説明がありましたが、議題（1）「子ども読書活動推進計画の取組の体系と具体例」の取組の体系について、皆様のご質問等があればお聞かせいただければと思います。

ご質問などがございましたら、ご発言をお願いします。

○委員

高校生になると読書の活動時間が少なくなるというお話があったのですが、それが、どうしてなのかを詳しく教えていただきたいと思います。

○座長

事務局いかがでしょうか。

○事務局

この「子ども読書活動推進計画」については、法律に基づきまして、国の読書推進計画というのがございます。国の計画では、全国的な読書状況の取りまとめも行っておりまして、高校生の読書率が下がっています。

これまで、2000年頃から取り組んできた読書率が、全体的には、小学生も中学生も上がってきております。全体的に、20年間では、上がってきていますが、小学生では、高かった読書率が、高校生では、下がってしまっているということは、読まない人達がある程度いらっしゃるということになります。区の計画書の28ページをご覧くださいてもよろしいでしょうか。これは、練馬区にある都立高校の高校生の読書率でございますが、こちらを見ましても64.6%という実績値になっております。あくまで、練馬区内の高校に通っている方ですので、練馬区民100%ではなく、小、中学生のように区民の方のほとんどを対象にしている数字とは違うため、参考数字としてこのようにとってはいるのですが、小、中学生のように90%超えているというところから大きく下がるどころかご覧いただけるかと思えます。

○事務局

付け加えさせていただきます。委員からの質問で、どうして高校生になると読書率が下がるのかということでしたが、これは、前の第10期までの委員の方でも話題になっておりました。部活や学業、放課後の時間の使い方が小学生、中学生と比較して、アルバイトを始めるなど生活の仕方が高校生になるとより多様化します。その中で、読書が好きで、読書を楽しむお子さんとそこから新しく読書に入るところの切り替えのラインが顕著になるのではないかと思います。

今回取り組みの中にもありますが、活字を本で読むだけではなく、高校生たちには、タブレットやスマホを使う電子的なデータが、今後は、必要になるということで、読書離れを少しでも減らしていきたいと考えています。これも絶

対というわけではなく、一つは、生活の仕方が多様化してくるということと小中学校の場合は、学校の授業、生活の中で学校図書館を使う意識的な働きかけが大きいのではないかと考えています。

○座長

委員よろしいでしょうか。

その他にご質問がある方いらっしゃいますでしょうか。

およその枠組みということでご説明、ご確認いただけたと思いますので、次の議題に参りたいと思います。

続きまして、「子ども読書活動推進計画の取組の具体例」について事務局からご説明をお願いします。

(事務局説明)

○座長

事務局よりご説明がありましたが、「子ども読書活動推進計画の取組の具体例」について皆様のご質問やご意見等お聞かせいただければと思います。

ご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

○座長

委員よろしくお願いたします。

○委員

ありがとうございます。非常に具体的な取り組みを色々聞かせていただいて、4点気づいたことをコメントさせていただきます。

まず、おすすめ本の紹介の冊子の画像を共有いただきましたが、図書館のスタッフの方々が、お手元で熱心に作っていらっしゃると思いますが、既に、本に親しんでいる方にはいいのかと思います。しかし、先程の話でも課題にありましたが、中、高校生、小学校高学年向けに魅力的に感じるようなデザインになると、さらに良いのではないかと思います。そのため、グラフィックデザインなどについても予算を取っていただきたいと思いました。

2点目、小学校や児童館で校外の者として参加していたのですが、コロナの影響で学校の中で参加できない状態が続いています。学校からはリスクを考え

ると自分からは開きにくい状況のため、区や図書館の方から再開の機会を増やすことを働きかけていただきたいという要望です。

3点目、ビブリオバトルは、子どもたちにとって本をきっかけとしたコミュニケーションが味わえる非常に貴重な機会だと思うのですが、課題としてあげられていた本から離れてしまっている人、高校生向けの事業はどのようなものがあるでしょうか。本の有効性を知らしめるような、例えばバイト先の法律問題、デートDVであったり、高校生にとって本が役立つことが分かる事業がありますでしょうか。

最後に環境整備のことをお話されていましたが、この中になかったのですが、環境ということでは親御さんへの啓発や支援活動は事業でありましたでしょうか。

2点は要望、2点は質問です。よろしくお願いします。

○座長

ありがとうございました。

学校の方から、コロナ禍ということになりますと、次の議題に重なることもあるかと思えます。

デザインの問題で、事務局の方から最近の新たな動き等ございましたら補足してご説明いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

委員から要望や質問を4点いただきまして、こちらについてお話をさせていただければと思います。ご指摘の通り4つのバージョンでイラストが共通していることがございます。私達のほうでも毎年印刷会社の方を交えてデザインなどを話し合っています。バリエーション豊かでよりキャッチーにしていく取り組みが欠かせないのかなと思っています。こちらのほうは、私達もさらに取り組んでまいりたいと思います。

○事務局

2点目についてです。オミクロン株の関係で、保育園や小学校が学級閉鎖状態になっていたり、中学校・高校では、行事が中止になり、コロナ前のような学校生活がおくれない状況で、どうしても今の時期に外部の方を入れて読み聞かせを行うのは難しいと感じています。

小中学生には、タブレットが配布されているので、例えば、オンラインで行う読み聞かせを学校の中だけではなく、自宅でもできると考えられます。しばらく、WITHコロナの時代が続くと思いますので、そういうことも踏まえて、検

討していきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

○事務局

3点目の高校生向けの事業のことでございます。ビブリオバトルをご紹介しましたが、それ以外にも色々な意見の検討の中でも、どういふものが高校生に刺さる企画になるのか、高校生が、振り向くような内容が必要であるといふところが、共通した悩みでございます。

高校生向けの事業は2つあると思ひています。1つ目は、第四次計画でもSNSの活用が謳われております。練馬区でもTwitterアカウントがございまして、こういった媒体を活用していくといふのが一つあると思ひます。児童年代で人形劇を区立図書館のYouTubeに載せまして、図書館に来なくても人形劇を楽しんでいただけるといふことを行つたのですが、これをTwitterでハッシュタグをつけて発信したところ、大きな反響がありまして、Twitterなど若者が使う媒体をより積極的に使っていくことを第四次計画でも取り組んでおります。また、十代の若者がよく読むライトノベルという種類があり、関町図書館ではライトノベルの出版社の方をお呼びして、ライトノベル作家になる方法の講演会などを行つております。現代に合つた内容ですが、関町図書館の周辺以外の方が参加しづらいついところがあります。

高校生に合つた事業をTwitterで周知していく取り組みを重ねて、色々、取り組んでいくことで委員の皆様にも効果があつたことをご報告ができるかと考えております。

○事務局

最後の4番目の質問についてです。保護者向けの取り組みといふのは、計画書の22ページにございますが、親御さんが読書をする環境を作っていくことで家庭読書に繋がっていくといふこともあります。「よんでみようこんなほん」、「ほんだな」をお子様向けにだしてありますが、計画にもありますように保護者だより、保護者に向けてのお便りを入れていただけるものの作成や、保育園、学童クラブなどの会を通じて、保護者にお知らせできるようなものを図書館として発行することが今回の大きな取り組みにも入つていますので、具体的に考えて進めたいと思ひています。

家庭での読書が基盤になりますので、ご意見いただきながら取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○委員

ありがとうございます。最後のものについては、ぜひ高校も取り組んでいただければと思いました。以上です。ありがとうございました。

○座長

ありがとうございました。他にご質問は、ございますか。
副座長お願いします。

○副座長

具体的な取り組みの中に読み聞かせがありますが、各図書館が素語りを実施しています。非常に読書に繋がると思うので、読み聞かせ、素語りのようなかたちが入るといいかなと思うのと図書館の司書の方達が学校に行ってブックトークをしています。ブックトークもとても読書推進に繋がるものと思いますので、具体的な読書に繋がる政策の中に素語り、ブックトークというものが入ると良いと思いました。お話会はコロナ禍でも学校で行われました。今年は、昨日もですが1年生から6年生までのお話会がありました。お話を聞くと本を読みたくなる子ども達がいるようです。学校の図書館もお話会の後には、そのお話が載っている本を借りに来ますし、図書館でお話会をすると図書館の方が、関連のある本を紹介してくれるのでその日は、かなりの本が借りられます。

委員の質問の答えになるのかなと思いますが、高校生が図書館に来ないが来るためには、どうしたらいいのだろうと話をしたことがありました。高校生が集まって話し合えるような場所が図書館にあると色々な話ができるので、そんなスペースが欲しい。高校生向けのワークショップ、例えば、翻訳の仕方を行ったらとても楽しかったとのこと。高校生向けのワークショップのような事業を図書館がたくさん取り入れると良いと思います。高校生対象のワークショップがあると図書館に足を運び、読書に繋がっていくのではないかと意見が出ていました。

また、小学校での本の探検ラリーは、保護者の方にお手伝いをお願いしています。保護者の方が、本の探検ラリーのお手伝いに参加することで本との出会いがあり、子どもの時に読んだ本、家にある本などの話が出て保護者の読書活動に繋がり、子どもとの会話にも繋がっており、非常に良い取り組みだと思えます。

○座長

ありがとうございます。事務局から具体的な取り組みに記述を膨らませるといった点、いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございました。今日、お送りした資料は、色々な取り組みの中の抜粋だったので、素語り、素話、ブックトークを載せていなかったのですけれども、計画の中には、大事な位置づけとして置いているので、それらも含めて今後やっていきたいと思っています。

最後の保護者向けの啓発、学校で本の探検ラリーをする時に PTA の方や保護者のお手伝いのその反応を読ませていただいているので、今行っている既存の事業を活用しながらお子様だけではなく大人の方達も巻き込んでいき、読書活動の支援をしていくのが課題なのだと思います。ありがとうございます。

○座長

他にご質問は、ございますか。せっかくの機会ですので、副座長に、文庫連と図書館が共同して作成するブックリスト「よんでみようこんなほん」についてお話しいただければと思います。いかがでしょうか。

○副座長

委員から「よんでみようこんなほん」のデザインの変化がない、ということでしたが、現在その通りだと思います。他区の図書館では、とても美しい一冊の本のようなブックリストを出されているので、そこから見るとシンプルといえますか、紙一枚表裏で、他区のような豪華なものがいいと思っている方もいるだろうなと思っています。練馬区のこの「よんでみようこんなほん」は、図書館の方だけで作るのではなく、図書館外の協力団体が一緒になって作っています。他区の図書館が作成している冊子は、赤ちゃんから中学生ぐらいまでの本が一冊にまとまっていて、それが読みやすさや、手に取りやすさになっているかもしれません。しかし、「よんでみようこんなほん」は、赤ちゃん、幼児、低学年、中学年、高学年の四つの分野に分かれて印刷されていて、そこが私は良いと思っています。良い部分は残していただいて、予算などを考慮し、印刷の仕方は他の方達のご意見を聞いて、進化させていく方向もいいのかもしいなと思いました。先程もお話したように図書館側だけのやり方で「よんでみようこんなほん」は出されている訳ではないので、協力団体は必要な意見を区立図書館にお届けして、前進していける方向があるならば、次のステップになるのではないかと委員の言葉で思いました。

もう一つよろしいでしょうか。先程、本の探検ラリーのことをお話くださったのですが、私の実際の経験をお話します。私が図書館開放の指導員をしている学校に、本の探検ラリーが来てくださったことがありました。私は卒業生の

母ですが、人が足りないなど色々なことがあり、私もスタッフに混ぜていただきました。その時に、在校生のお母様達も協力しに来てくださったのですが、本の探検ラリーに来てくださったスタッフの方との交流に、若いお母様達もものすごくいきいきした様子だったことを覚えています。本を知ることはとても大事ですが、本と一緒にそこで出会った人達のことにも吸収して、とても充実した時間だったのだと思います。本の探検ラリーの経験は、本と共に人との出会いを栄養素にできる良い取り組みだなと思いました。事務局から教えていただいたように練馬区独自のものなので、私は大事にさせていただきたいなと思いました。以上です。

○座長

ありがとうございました。読書だけではなく、コミュニティーがそこでできあがって、難しい本も高校生がお友達同士で一緒に読むですとか、本を通して人と繋がる活動も非常に意義が深いようにも思われつつお話を伺っておりました。この件に関して、事務局からご返答、レスポンスございますか。

○事務局

ありがとうございます。色々まだ試行錯誤することもありますので、今行っている取り組みは、図書館だけではできなくて、ボランティア協力してくださる方ありきの事業でもありますので、今後も上手に運営していきたいなと思っています。

副座長が話されていた予算をどう活用するかも課題でもありますので、工夫しながら少しでも良いものを作れるようにご意見いただきたいと思っています。

○座長

ありがとうございます。校長先生、小学校における読書に関する事業と朝読や読書月間など学校による読書活動についてご共有いただける点がございましたら一言いただきたいのですが。

○校長先生

お話を伺っていて、本の探検ラリーのことについては、同じことを思っていました。保護者が関わることでとても良い取り組みになっており、コロナが収まり次第、ぜひ復活したいと思っています。コロナの影響については、先程、図書館のほうからも話がありましたが、今現在、本校も含めて学級閉鎖の大変な状況が続いているところです。収まり次第、学校は、先生達だけではなく、外部の人、地域の人が入ることによって子ども達はとても喜ぶますので、その

あたりは、区から言っていたくのもありますが、学校も規模の違い、感染状況によって違いがあるので、私個人的には、ある程度許す状況であれば以前のようなかたちで、読み聞かせを行っていききたいなと思っているところです。

別件ですが、先程、高校生でビブリオバトルのお話がありましたが、ビブリオバトルの公式のルールとしては、5分間で本を紹介するのですが、高校生だけではなく、小学生も昨年度は、練馬区の学校図書館で、3分間で本を紹介するミニビブリオバトルを行いました。高校生で本に興味のないお子さんにとのお話もありましたが、小学校でミニビブリオバトルの取り組みを行うことによって本に興味を持つきっかけとなり、本を紹介しないといけないからどれにしようかなと考え、授業の中で、友達の本の紹介を聞いて読んでみようかなというきっかけづくりにもなっていると思っています。

以前、鬼滅の刃が流行った時に、アニメ、映画、ノベライズ本のほうにも普及しているという話がありました。YOASOBIという音楽アーティストがいますが、小説を歌にしており、YOASOBIの音楽を聴いて、高校生などは小説や本に興味を持ったというような例もあります。

先程、SNSのことも出ましたが、音楽やSNSのTwitterを含めて、色々なところにアンテナを張りながら、高校生が興味のあるところをピンポイントで流行のりながら取り組んでいくのもいいのかなと思っている次第です。

○座長

ありがとうございました。せっかくの機会ですので、学校の現場にいらっしゃる校長先生にも「様々な支援を必要とする子どもと、読書推進の重要性」等について一言頂ければと存じます。よろしく願いいたします。

○校長先生

ありがとうございます。自分から図書館に行くということが、障がいがある子ども達には、なかなか難しいと思うことがあります。本を読むのもそうですが、利用するのにも誰かしらの支援が無いと難しいところがあるので、子ども達を助ける手だてというものが、社会支援としてあるといいなと思います。様々な支援を必要とする子ども達がいるので、子ども達にとって図書館で読める本が、色々あるのですが、まず、出会わせるときに本校では「うたえほん」を活用しています。読んで聞かせてあげるとその本に興味を持ったりということがあると思います。障がいがある子ども達は、本を大事に扱うということが難しいと感じることがあります。障がいがある子ども達に本を大事に扱うということを教えながらですが、コーティングしていただいたりとか、そういう子ども達が読みやすいような本をまとめておいてもらえるといいと思います。また布

の絵本だと、涎がついてしまうので、そういう子ども達を読みやすい形状の本というのを特別に用意していただけると、より使いやすかったです。あとは、アニメ雑誌、漫画も最近置いていただいているように、幅広いジャンルの本があるということが図書館に必要だと思いました。以上です。

○座長

続いて、次第2 『コロナ禍における近隣区の状況について』に移ります。
事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

○座長

事務局から説明がありましたが、議題2『コロナ禍における近隣区の状況』について、皆様のご意見等お聞かせいただければと思います。

ご意見ご質問などございましたら、ご発言をお願いします。

委員、もし、よろしければ感想等でも構いませんので、ご発言いただければと思います。よろしく願いいたします。

○委員

先程の話に戻ってしまうのですが、学校でのお話会のことについてです。私の娘が通っている小学校の一例で、参考になればと思い、お話をさせていただきます。私自身、今、小学校の読み聞かせのサークルにいますが、前年度は、全く活動ができない状況でした。今年度は、どうしたらお話会ができるかということで、学校にも相談しました。そこで、こちらからの提案で、給食の時間にお昼の放送を使って10分程度、読み聞かせを行うようになりました。放送室の中に入れる人数が、放送担当の先生お一人と私達2人ぐらいなので、そういったかたちでも行えるため、学校の先生方にも好評でした。また、目からの情報が入ってくることが多い時代で、朗読という形になってしまいましたが、耳からの情報を得るということは、非常に良いことだということで先生方にご好評いただいております。もし、そういった形でも各学校でできるようであれば、ボランティアのお母様たちにさせていただくのもいいのかなと思います。

実際、お話会自体も子ども達と対面にならないようなかたちでお話会を行っており、実施しようと思えばできるものですので、ぜひ、小学校でも行っていただければなと思います。

今日は、色々な方からお話を伺えて、今までの活動やこれからの活動が分かったので、良かったです。ありがとうございました。

○座長

ご発言ありがとうございました。今は黙食で、給食の時に話してはいけないようですね。お昼休みの貴重な機会かもしれません。

他の委員の皆様で、よろしければ、感想でもいいですし、コロナ禍における近隣区の状況について、ご発言いただければと思います。よろしくお願ひします。

○委員

私も小学校で読み聞かせボランティアをしており、中止になりました。先程の放送の話は、黙食の中、地域の方の声が聞こえるのは素敵なアイデアだと思いました。

高校生の話が出ていましたが、SNSなどを活用していく方向であれば、高校生は大人よりも知識を持っているので、高校生の力を借りて事業を進めていくと良いと思いました。また、地域の方と関われる本の探検ラリーに学年の違う子ども・高校生が接するような機会を設けることや、「よんでみようこんなほん」の冊子アイデアなどに高校生の力を借りて取り組むことは、素敵なことだと思いました。ありがとうございます。

○座長

ご発言ありがとうございました。高校生を巻き込む、良いアイデアだと思います。大学受験等で忙しくなる方も多いかと思いますので、何か高校生の動機づけになるような、地域での活動が、大学受験の際、課外活動として評価されるような仕組みもあってよいのかなと思ひながらお話を伺っていました。

事務局からレスポンスはございますか。

○事務局

色々ご意見ありがとうございました。皆様の貴重なご意見をひとつひとつ、計画の中で実行していけたらと考えています。

特にご提案のあった読み聞かせに関しては、校長会などでコロナの状況をみながら、提案していき、受け入れていただける学校があれば相談したいと思います。

本当に今日はありがとうございました。

○座長

ありがとうございます。

他に、ご意見・ご質問等はありませんでしょうか。

○事務局

続いて、次第の3、その他に移ります。

その他で、各委員および事務局から何かありますか？

○事務局

第11期の第三回の会議は、令和4年7月前後に開催する予定です。令和3年度の振り返りを議題とする予定です。正式な日程が決まり次第、開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○座長

それでは、第11期第二回練馬区子ども読書活動推進会議を終了いたします。
ありがとうございました。